

Photographic Society of

Zone System

ゾーンシステム研究会会報

発行日: 2025.11.1

発行者: 中島秀雄

事務局・編集: 畑 文夫

No.77

ゾーンシステム研究会 創立30周年記念号

CONTENTS

- ・アダムスのバトン (2025年写真展 挨拶パネルより)
- ・写真展 会場風景
- ・写真展DM集
- ・写真展目録
- ・対談 ゾーンシステム研究会 発足のころ
- ・連載 中島秀雄 写真と私 (1)
- ・2025年活動記録 (1~9月)

アダムスのバトン

ゾーンシステム研究会は、銀塩写真の美しさを追求して30年になります。

私たちは自然や都市の風景、そして構造物、静物など、光の微妙なディテールにカメラを向けてきました。自然風景にしても都市風景にしても、被写体はカメラを持つ私たちに常にイメージを投げかけてきます。その本質を正確に見るためのツールとして、私たちはアメリカの写真家アンセル・アダムスが考案したゾーンシステムを活用してきました。

ゾーンシステムは露出、現像、プリントに至る処理を制御するための実践的な技法で、美しい銀塩写真を制作するためには欠くことが出来ないものです。

私たちは、十数年前から長期保存を目的とするオリジナルプリントをポートフォリオ(作品集)という形で纏めてきました。このポートフォリオは印刷物と異なり、サインを入れたオリジナルプリントで、作者の直接的な表明です。作品として、記録として、コレクションとして手元に置くばかりではなく、大学の写真部門や美術館に収蔵していただくこともできました。

今回は、このポートフォリオ I、II、III を展示します。

フランスの画家・ダゲールが銀板写真を発明して、今年で186年になります。

現在、写真の主流はフィルムも印画紙も使わない電子画像に変わりました。しかし、銀塩写真は他にはない独特の美しさをもつメディアです。私たちはこれからも制作を続けていきます。

ゾーンシステム研究会は、写真制作全般をアダムスのバトン＝指揮棒に導かれたという思いを強くもっています。



アンセル・アダムスのアトリエにて
アダムスの子息・マイケル氏と(2005年)

2025年8月

ゾーンシステム研究会代表
写真家 中島秀雄

(写真展 挨拶パネルより)

写真展 会場風景 富士フィルムフォトサロン 2025年8月22～28日



展示は業者の手で、1時間ほどで終了(21日)



中島代表によるギャラリートーク(23日)



ゾーンシステムのTシャツ
を着たお客さんも来場













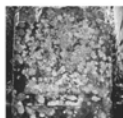


大判カメラのピントグラスを撮影するといふ、新しい?楽しみ方も

2025年 写真展目録

ゾーンシステム研究会
30th Anniversary
ポートフォリオ展
Portfolio Exhibition
—アダムスのバトン—
Baton of Adams

2025.8/22[金]~8/28[木]
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1

| | Title/Name | Site | Film | Lens/Aperture/S.speed | Price |
|---|---|--------------------|---------------------------|----------------------------|----------|
| PORTFOLIO I |  Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005 中島秀雄 H.Nakajima | | 4×5 | 125mm f 45 6秒 | ¥70,000 |
| |  The lost pier 北野龍一 R.Kitano | San Francisco | 4×5 | 210mm f 32 2/3 1/60秒 | |
| |  Leaf 赤羽章司 S.Akahane | 長野県 鎌池 | 8×10 | 300mm f 16 1/30秒 | |
| |  乱流 橋田 功 I.Kitsuda | カリフォルニア州 ヨセミテ渓谷 | 4×5 | 180mm f 45 1/15秒 | ¥12,000* |
| |  雲湧く 川北 弘 H.Kawakita | 山梨県 清里 | 6×6 | 38mm f 8 1/125秒 | ¥12,000* |
| |  Beach 内田 順 J.Uchida | 宮崎県 | 4×5 | 180mm f 32 1/30秒 | |
| |  Cabbage 荒井 崇 T.Arai | | 4×5 | 210mm f 32 10秒 | ¥12,000* |
| |  海景 小菅秀一 S.Kosuge | | 4×5 | 90mm f 45 1/2秒 | |
| |  安濃ダム 藤森利昭 T.Fujimori | | 4×5 | 120mm f 22 1/8秒 | ¥12,000 |
| |  レインコートのスイス衛兵 葛城忠彦 T.Katsuragi | | 6×6 | 80mm f 16 1/60秒 | |
|  春待つ川畔 金子正道 M.Kaneko | 福島県 猪苗代町 | 6×6 | 80mm f 16 1/2 1/60秒 | | |

| | Title/Name | Site | Film | Lens/Aperture/S.speed | Price |
|---|---|--|------------------|--------------------------------|--|
|  | 青林橋 浜野次郎 J.Hamano | 東京都 自宅 | 4×5 | 210mm f 32 4秒 | ¥12,000* |
|  | a symphony 古谷津純一 J.Koyatsu | 茨城県 高萩市 | 8×10 | 190mm f 32 1/10秒 | |
|  | レジャー 岡崎克之 K.Okazaki | 千葉県 稲毛海岸 | 4×5 | 150mm f 22 1/30秒 | |
|  | 静寂の中の激流 石井政吉 M.Ishii | | 4×5 | 150mm f 64 4秒 | |
|  | 凍てるモンステラ 鈴木武志 T.Suzuki | | 6×6 | 210mm f 45 35秒 | ¥12,000 |
|  | High Tide 越後久雄 H.Echigo | | 4×5 | 210mm f 45 8秒 | |
|  | horizon 藤田昇 N.Fujita | | 4×5 | 150mm f 64 1/4秒 | |
|  | Lighthouse, Pigeon Point,CA 畑 文夫 F.Hata | カリフォルニア州 ビジョンポイント | 4×5 | 210mm f 64 1/2秒 | ¥12,000 |
| PORTFOLIO II |  | 卷 雲 中島秀雄 H.Nakajima | アメリカ カリフォルニア州 | 4×5 210mm f 32 1/8秒 | ¥150,000 (14×17) ¥100,000 (11×14) |
| |  | 光と影 岡崎克之 K.Okazaki | 千葉県 美浜区 | 4×5 150mm f 16 1/30秒 | |
| |  | Efes(エフェス) 松本ひさ子 H.Matsumoto | トルコ | 6×6 80mm f 22 1/60秒 | |
| |  | Lion's Tail (Agave attenuata) 白井健司 K.Usui | 静岡県 伊東市 | 6×6 80mm f 11 1/8秒 | ¥18,000 |
| |  | pomegranates 北野龍一 R.Kitano | 東京都 自宅 | 4×5 180mm f 45 2/3 4秒 | |

| | Title/Name | Site | Film | Lens/Aperture/S.speed | Price |
|--|---------------------------------------|---------------------------------|------|---------------------------|---------------------------|
|  | アーティチョーク 浜野次郎 J.Hamano | 東京都 自宅 | 4×5 | 210mm f 45 1/2 30秒 | ¥18,000* |
|  | 奥大日岳 荒井 崇 T.Arai | 富山県 立山室堂 | 4×5 | 150mm f 45 1/4秒 | ¥34,000 (14×17 のみ)* |
|  | 樹霊 橘田 功 I.Kitsuda | カリフォルニア州 ポイントロボス | 4×5 | 180mm f 45 1/15秒 | ¥18,000* |
|  | 夏の終わりに 長谷川勇夫 I.Hasegawa | 千葉県 自宅 | 4×5 | 150mm f 32 2秒 | |
|  | そら豆 金子正道 M.Kaneko | | 4×5 | 150mm f 22 4秒 | |
|  | Four pillars 小菅秀一 S.Kosuge | 茨城県 つくば市 | 4×5 | 90mm f 45 1秒 | |
|  | 岳樺晩秋 皆川 賢 K.Minagawa | 長野県 カヤノ平 | 4×5 | 90mm f 64 1/30秒 | |
|  | Olmeca Head 川北 弘 H.Kawakita | 静岡県 | 6×6 | 50mm f 32 1/15秒 | ¥18,000* |
|  | flood tide(上げ潮) 古谷津純一 J.Koyatsu | 千葉県 銚子市 | 8×10 | 210mm f 32 1/3 1秒 | |
|  | Métro Paris 越後久雄 H.Echigo | パリ メトロ11号線 アール・ゼ・ メチエ駅 | 6×6 | 38mm f 22 30秒 | |
|  | The city & the city 畑 文夫 F.Hata | 東京都 渋谷 | 8×10 | 300mm f 45 1/15秒 | ¥18,000* |
| PORTFOLIO III  | 都市の視線 中島秀雄 H.Nakajima | 新宿御苑 | 4×5 | 150mm f 45 1/3 1/4秒 | ¥50,000 |
|  | MONSTER 塚田佳佑 K.Tsukada | 茨城県 つくば市 | 6×7 | 127mm f 22 1秒 | ¥12,000 |

| | Title/Name | Site | Film | Lens/Aperture/S.Speed | Price |
|---|--|------------|------|----------------------------|----------|
|  | 東京国際 フォーラム 大内 元 G.Ouchi | 東京都千代田区 | 4×5 | 135mm f 32 2/3 1/8秒 | |
|  | 都会の風景 宮内廣仁 H.Miyauchi | 新宿御苑 | 4×5 | 150mm f 32 1/8秒 | |
|  | Wall 小菅秀一 S.Kosuge | 茨城県水戸市 | 4×5 | 90mm f 32 2/3 1秒 | ¥12,000 |
|  | 都会のオアシス 岩田伸一 S.Iwata | 浜離宮庭園 | 4×5 | 120mm f 32. 1/3 1/8秒 | |
|  | Monster Gym 川北 弘 H.Kawakita | 東京都渋谷区 | 6×6 | 38mm f 22 1/8秒 | ¥12,000* |
|  | 壁画と梯子 浜野次郎 J.Hamano | ブダペスト | 4×5 | 210mm f 16 1/30秒 | ¥12,000 |
|  | Curved junction, Shinjuku 畑 文夫 F.Hata | 新宿区初台 | 8×10 | 300mm f 90 1秒 | ¥12,000 |
|  | Agaveのある風景 白井健司 K.Usui | 東京都 中央区 | 4×5 | 150mm f 45 1/8秒 | ¥12,000 |
|  | Illumination 鈴木知之 T.Suzuki | 東京都中央区 | 4×5 | 75mm f 22 4秒 | ¥12,000 |
|  | 早春の光景 石井康子 Y.Ishi | 新宿御苑 | 4×5 | 120mm f 32 1/4秒 | |

作品購入を
ご希望の方へ

- ポートフォリオ I (函入り19作品 ¥120,000)・II (函入り16作品 ¥180,000)・III (函入り12作品 ¥120,000)をご希望の方は受付にお声がけください。
- 価格表示のある展示作品については、作者によるサイン入りプリントを販売いたします。(プリントのみ、フレームおよびマットは別。
*印は枚数限定。納期等要相談となります)

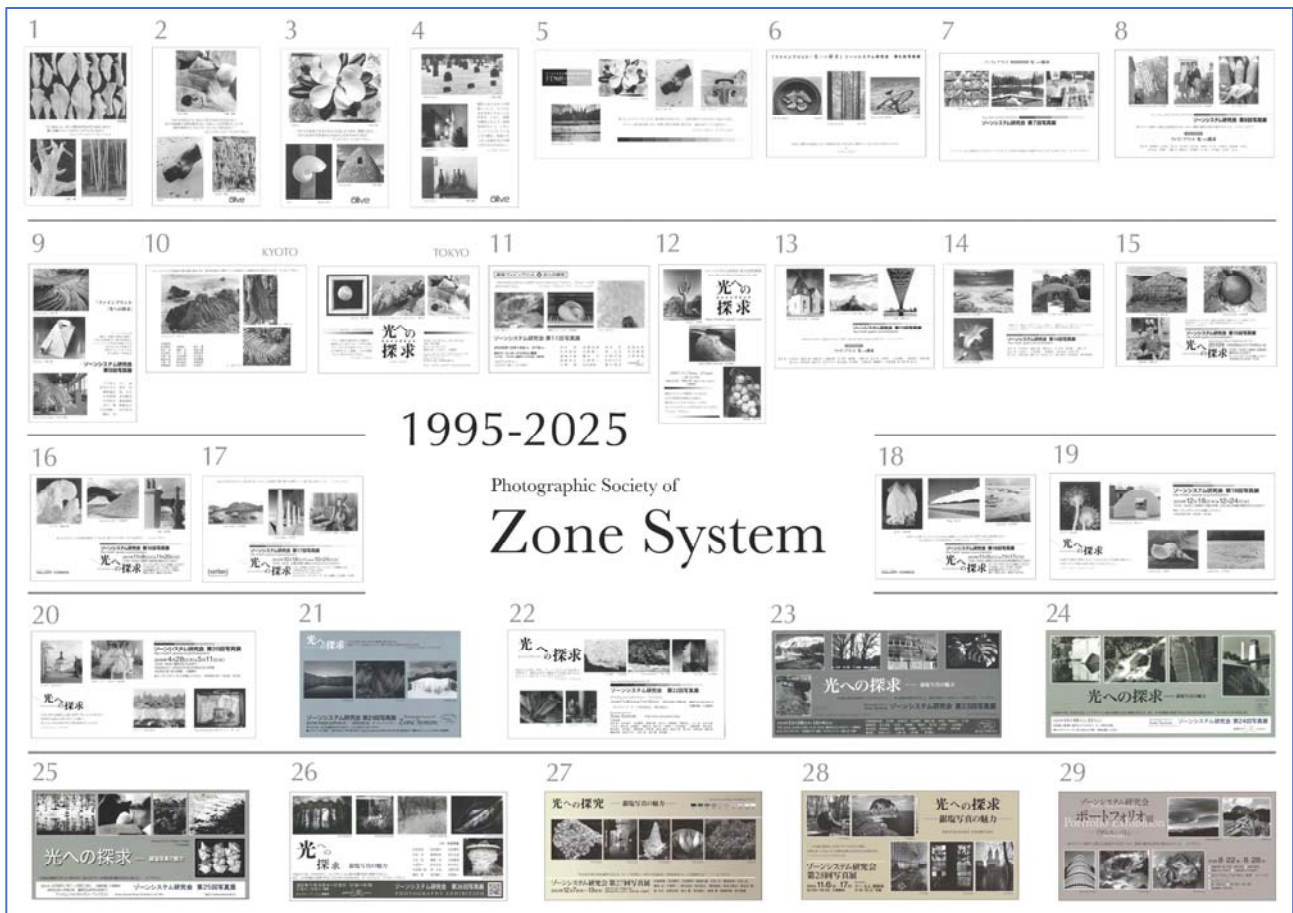
ゾーンシステム
研究会について

ゾーンシステム研究会(代表：写真家中島秀雄)は、大判カメラを用いた銀塩ファインプリントを採求するため1995年につくられました。現在約30名の会員が、撮影から現像、プリントまでの暗室作業に取り組んでおり、月例会は原則として毎月第2土曜日の午後2時~5時に行なっています。入会ご希望の方は、どうぞお気軽にお問い合わせください。
事務局アドレス：admin@zonesystem.tokyo



ゾーンシステム研究会HP

写真展DM集



ゾーンシステム研究会
30th Anniversary
ポートフォリオ展
Portfolio Exhibition
— アダムスのバトン —
Batons of Adams

一枚のプリント制作には膨大な創造性が存在しており、無数の微妙な変化が秘められている。 A. アダムス



Hidoko Nakajima



Kenji Umi



Tomoyuki Suzuki



Iiso Kitasada



Jiro Hamano

2025.8.22[金]~8.28[木]

- ◆ 開館時間 10:00~19:00 ◆ 会期中無休
- ◆ 最終日16:00まで ◆ 入館は終了10分前まで
- ◆ 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1
- ◆ ギャラリートーク
8/23[土] ◆ 14:00~14:30
- ◆ 参加無料・予約不要

対談 ゾーンシステム研究会発足のころ

ゾーンシステム研究会が 1995 年に発足し、30 年となったのを機に、発足当時のエピソードを中島代表と赤羽章司さん（現在は休会中）に伺いました。（文責・畑、文中敬称略）

研究会設立の背景

1970 年代には主にアメリカで、オリジナルプリントを美術作品として売買することが盛んになってきました。その波はやがて日本にも伝わり、1988 年 5 月に川崎市市民ミュージアムの写真部門学芸員に就任した平木収は、オリジナルプリントを制作する実践的な手法である「ゾーンシステム」の実技講座を企画しました。すでにアメリカのワークショップに通って技術を身につけていた日本で数少ない写真家・中島秀雄に声をかけ「グレードアップフォトグラフィ」講座をスタートしたのです。

講座は 1988 年 11 月に始まり、1994 年の 7 回目までに受講した人は 100 人に達しました。そして参加者の中から、技術を深めるためにグループを作って継続的に活動したいという声が上がりました。五来瑛二が中心となって 23 人が集まり、1995 年 1 月に 16 人で「設立総会」を開きました。その席で議長を務めた赤羽章司が会の名称を「ゾーンシステム研究会」と名付けたのです。



中島 平木さんとの出会いは、当時虎ノ門にあった PGI(フォト ギャラリー インターナショナル) で開いた私の個展会場でした。ゾーンシステムによる写真に興味を持ってきて、市民ミュージアムでのワークショップへとつながったのです。

赤羽 私は当時、武蔵工大(世田谷区尾山台)で電子顕微鏡を扱う仕事をしていました。走査電顕や透過電顕の画面をモノクロフィルム(ブローニー)で撮影し、現像・プリントしたデータを渡すのです。

そんなことでモノクロ写真に興味があり、川崎市市民ミュージアムで写真教室があることを知って参加しようと思いました。ミュージアムは武蔵小杉にあったので比較的近かったのです。

自分も研究職なので、「研究会」という意識がありました。

ゾーンシステムを理解するため、先生の講座は 2 回受けました。現像からプリント制作までが難しかったですね。

ただ、自分は技術系なので、技術を組み立てながら理解していくことに抵抗はありませんでした。

中島 古谷さんという名古屋に住む熱心な会員がいて、滝や溪流の撮影会を行った。

赤羽 初期のころは撮影会がメインでした。プリントの講評などはあまりなかったとおもいます。そのうち、先生のお宅に伺ってプリントするようになりました。

初めのうちはハッセルなど 6×6 判を使っていましたが、より解像度の高い 4×5 を使うようになっていきました。

密着プリントの美しさにも惹かれ、8×10 も導入しました。これは見た目の格好良さにもあこがれたのですが・・・

中島 会報にアダムスの本を紹介する文章を載せ

るため、翻訳者(梅沢篤之介)にコンタクトしたこともあった。それが縁で、研究会でレクチャーをお願いしました。

赤羽 先生にアダムスの写真を紹介されたときはモノクロの美しさに衝撃を受けました。モノクロの深みにカラーは到底及びませんね。私は研究会が発足したころ、故郷の長野にもどりました。研究会の集まりには数時間かけて通ったものです。先生のプリントの美しさをめざして白樺なども撮りました。研究会の撮影会で蓼科の雪景色を狙ったのですが、雪が少なく苦勞したこともよい思い出です。

中島 撮影会といえば、ヨセミテには三回行ったね。
赤羽 いえ、その時にはもう休会していたので行きませんでした。現在は写真からすこし離れて蕎麦打ちに没頭しています。自宅に製粉と蕎麦打ちの作業所を建てました。暗室までは手が回らないのです。蕎麦も写真と同じく、時間とお金のあるシニアの趣味です。自分の思い・感情を表現できるプリントが創れないと感動は伝わりません。味覚も同じで、自分で打った蕎麦を味わって初めて違いが分かるようになるのです。気持ちを込めて打たないと、ただの蕎麦でしかない。写真と同じですね。自分が習得した技術は広く伝えていきたいと思っています。

中島 モノクロ写真の魅力を伝えるためにゾーンシステムのワークショップをもっと行いたいですが、東京周辺では自由に使える暗室が少なく困っている。

赤羽 地方にも目を向けてはどうでしょうか。私の地元の松本市美術館は、草間彌生が目玉ですが、写真の展示もあます。写真の町・東川には蕎麦打ちで交流があります。

中島 そういつながりを大切にしたいね。

(インタビュー 2025.8.27 東京ミッドタウンにて)

編注:

1995年 第一期入会者

石原眞澄、古谷紘、山本昭二、山口恵万、菅野慶孝、小井川元慈、諸見里朝和、宇野裕、赤羽章司、川口真弘、五来瑛二、大久保守男、藤原英樹、古川翔士、吉野光次郎、小野望、大久保昌生、済藤隆義、上原治雄、鏑山英次、玉木純夫、木下威、篠原康之、萩谷剛、石井政吉

平木収(ひらき おさむ) 写真評論家

1949年 京都府生まれ 早稲田大学第二文学部卒

1975年 「カメラ毎日」に初の写真評論を掲載

1988年 川崎市市民ミュージアム学芸第二室写真部門担当学芸員に就任。日本初の独立した写真部門学芸員として活動を始める。

1994年 学芸主任の職を辞し、フリーでの活動を開始。

2009年 2月 食道がんのため逝去

(平木収お別れの会発行「平木収 1949-2009」より)

川崎市市民ミュージアム

1988年 神奈川県川崎市中原区の等々力緑地に開館。写真部門は日本の公立美術館で初めての設立となり、写真界の芥川賞と呼ばれる歴代の木村伊兵衛賞作品など貴重なコレクションを持っていた。

2019年 10月に台風19号による浸水被害で、地下収蔵庫にあった美術品が水没する被害に見舞われ、それ以降休館となった。川崎市生田緑地(向ヶ丘遊園跡地)に2029年以降に再建する見込みとなっている。(Wikipediaより)

30周年特別企画 連載 中島秀雄 写真と私 (1)

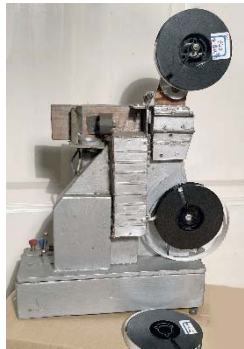
研究会の創立30周年記念として、中島代表に写真との出会い、さらにファインプリントに魅了されてゾーンシステムを身につけるまでを語っていただきました。

子供のころ 写真との出会い

小学校のころ針穴写真機で外の景色を眺めるのが楽しみでした。そのうち、友達がレンズを付けると、とても明るくシャープな映像になることにおどろき、これがきっかけで写真の原理に興味を持つようになりました。「子供の科学」の付録に組み立てカメラがあり、薬品も付いていたのですが、これはうまく撮れませんでした。年齢離れた姉が写真好きだったこともありますね。

当時は友達が持っていたフジペットにあこがれました。自分も欲しかったのですが、父はコニレットを買ってくれました。

工作も得意でした。中学生のとき、夏休みの工作で電動の洗濯機をつかって銀賞を受賞したのが励みになり、翌年は8ミリ映写機に挑戦しました。フィルムを間欠送りするためのメカは、鉄道模型の車輪をハート形に削るなどの苦勞をして完成しましたが、担任の先生には勉強に集中するように言われて出展出来なかったことはいまでも残念です。



高校生のころ、飛行機好きの友人の影響で、厚木や横田基地まで写真を撮りに行きました。それまでにペンタックスSVを持っていたのですが、標準レンズだけでは飛行機はうまく撮れませんでした。

そこでは飛行機好きの人たちが何人か集まり、自分で撮った写真を見せあっていました。キャビネ判に引き伸ばす人がいて、見せられたプリントにはジュラルミンの機体の輝き、車輪の黒との対比が美しく表現されていました。モノクロームプリントの美しさを知り、写真を本格的に始めようと思うきっかけでした。

飛行機を撮るのに標準レンズだけでは限界なので、アルバイトをしてコマラ200mmレンズを買いました。しかしプリセット絞りなのでタイミングが合わず、飛んでいる機体を撮るには苦勞しました。米軍基地の周辺で写真を撮っているとMPがやって来て脅かされたこともありました。ベトナム戦争のころで、機体についての爆弾が見えた時代です。

それまでは写真屋に頼んで焼き付けてもらっていましたが、自分で引き伸ばしたくなり、粉ミルクの空き缶を利用した伸ばし機を自作してみました。しかしムラが多くてきれいには仕上がりにません。そのうち、富士引伸機B型を買ってもらい、本格的にプリントを始めました。これで飛躍的にプリントがうまくなったと思います。高校に写真部はありましたが、レベルが低いので入りませんでした。クラブ活動は吹奏楽部に入り、三越に勤めていた姉に買ってもらったトランペットを吹いていました。「ウィリアム・テル序曲」をマスターするのが夢でした。



東京写真大学へ

アサヒカメラ誌の記事で、女流写真家の草分け清宮由美子さんが東京写真大学を卒業したと知り、自分の行先はそこしかないと思うようになりました。のちに細江先生の助手になった時、清宮さんがよくスタジオに顔を見せたので、そのエピソードを話したものです。

写大に入ったのは、同じ高校の写真部にいた友人と三人でした。入学後は「フェロー」というクラブに入り、授業が終わってから喫茶店で写真論を語り合いました。そこで細江英公という写真家がいることを知ったのです。細江氏は『おとこと女』や『鎌鼬』で有名になっていた大先輩でした。

文化祭の細江氏講演会は階段教室が学生で一

杯になりました。初めてみる細江氏の顔は年齢より老けた印象でした。

講演後の質疑でクラブの部長だった先輩の小島さんが「写真とは何ですか？」と質問をしました。「君、いい質問だね、写真とは『人間とは何か』だよ！」という回答に一瞬で写真の奥深さを感じたことが、今でも鮮明に記憶に残っています。しかし、講演で何を話したかは全く覚えていないのです。

専門課程では平野教授の指導を受けました。

教授は毎月一回課題を出すのですが、「坂道で撮れ」「光を撮れ」「組み写真」など抽象的なので、理解できないときは先生の部屋へ行ってずいぶんとお話をしました。課題に沿って撮影・プリントして一ヶ月後に提出するというのを続けるのです。自分はすべての課題に「特別合格」をもらいました。

細江英公のアシスタントに

後期の「映像とは何か」という論述試験を受けたあと、人を介して細江氏のアシスタントに誘われました。それまでの助手が辞めるので、替りを探していたらしいのです。細江氏の作品は人物が中心で自分の行き方とはちがうためすこし躊躇しましたが、写真家のアシスタントになるのは将来独立してプロになるためのめったにないチャンスだと考えて決心しました。

卒業の前から細江事務所に何度か伺い、奥様に挨拶しましたが、なかなか細江氏ご本人には会えません。何回か出直してようやくお目にかかれましたが、ドアをノックしなかったことを叱られ、その日は返されてしまいました。「写真家である前に、まず人間であれ」という先生の考え方が身に沁みました。失敗したかと落胆しましたが、やがて銀座ニコンサロンで『鎌鼬』展の受付をやるように言われてほっとしました。それが初仕事でした。

受付に座っていると、石元泰博、奈良原一高、佐藤明、木村伊兵衛など学生時代に論じ合った著名な写真家たちを目の当たりにできて興奮しました。それでも来客がまばらな時に本を読んでいると先生に見つかってまた叱られましたよ。

それから「細江先生の助手とはすごいですね！」と声をかけてきた同年代の青年がいました。その大

倉正美氏は横浜国大を卒業した後、先輩の彫刻家藤田昭子氏の作品を撮っていたのですが、どうもうまくいかないというのです。彼の下宿を訪れていろいろと話し込んだあげく、結局は私が撮ることになりました。

藤田昭子という造形作家との出会いは、瀧口修造、宮脇愛子、イサム・ノグチとの出会いにつながります。大倉氏との出会いが、私に貴重な人脈と自信をもたらしてくれました。

細江先生のアシスタントになったのはN君と私の二人でした。N君は主に四ツ谷のスタジオの担当。私は撮影の段取りからモデルの送迎、暗室の掃除、現像・プリントまで、シャッターを押すこと以外は殆ど一手に引き受けました。時にはお子さんの遊び相手、犬の散歩まで何でもやりました。

仕事は面白かったですね。浜美枝のヌード撮影は夜中に御宿海岸で行いました。ピントを合わせるために懐中電灯でモデルを照らすのですが、「顔じゃないよ、もっと下！」と言われたときはさすがに手が震えたものです。

細江先生の制作スタイルは撮影したあと、アシスタントがプリントしたものを見てからイメージを練り、さらに指示を出すというものでした。

『抱擁』(1971)では、オリジナルネガを現像してから、コピーフィルムやリスフィルムでデュープ・反転し、ハイコントラストや粗粒子など、先生のイメージに近づけていくのです。結局はマスキング方式でプリントしたものが男女の肉体の質感をコントロールできていて「これでいこう！」とお眼鏡にかないました。

このころのプリントは、印刷原稿にする目的で作っていました。そのため多少のごみや傷は印刷段階でレタッチできたのです。

ところが1970年代、アメリカを中心に写真そのものを鑑賞することの重要性が認識されはじめます。細江先生も「これからはオリジナルプリントの時代だ」と考え、日本にその傾向をいち早く持ち込みました。

1971年、銀座七丁目の画廊春秋で細江先生の個展をすることになりました。この画廊で最初にオリ

ジナルプリントを展示したのは、アメリカでユージン・スミスの手をつとめた森永純氏でしたが、さすがにその大切さはよく認識しておられましたね。

従来の複写を繰り返した作品プリントではゴミが多いので、展示用には改めてネガをつくり直す必要があります。『薔薇刑』、『おとこと女』、『鎌鼬』などオリジナルネガを複写しなおしてインターネガを作り、焼き直しました。現在ならデジタル技術で簡単に出来るのですが、当時は大変な作業でした。

それでも作品のサインはすべて細江先生であり、プリント制作者としての私の名は残らないのです。

ファインプリントとの出会い

話は前後しますが、1968(昭和 43)年に細江先生は「ジョージ イーストマン ハウス コレクション展」を企画し、日本への招致を成功させます。その図録をつくるために、田町の日通倉庫で作品の複写をすることになりました。撮影は私一人で行い、現像してみると額のガラスに自分の影が映るという失敗もしました。細江先生に怒られるかとびくびくしていましたが、どうやら先生は失敗を見越していたようでした。再撮影は黒い紙に穴をあけて、そこからレンズを覗かせることで何とか成功しました。

その時に見たアメリカのプリントはマットに固定されて額に入り、サインがされているなど、それまでベニヤのパネル貼りが普通だった自分たちの作品と全く異なる見せ方なのには驚きました。ウィン・バロック、マイナー・ホワイトやエドワード・ウェストンたちのプリントの美しさに覚えた感動はいまでも忘れられません。自分がオリジナルプリントをめざす大きなきっかけとなりました。

コレクション展は1968年9月に渋谷西武百貨店で開催されました。苦労した図録は当時もらえなかったのです。最近になってネットで入手しましたが、手にしてみると印刷の質がいまいちで、当時の感動が伝わって来ません。

ゾーンシステムを知る

細江スタジオにあった写真集を眺めながら「バロックやホワイトたちのように美しいプリントを作るにはどうしたらよいのでしょうか？」と先生に質問したとこ

ろ、「アメリカにはゾーンシステムという技法があるんだ。」というお答えでした。

この質問がきっかけになり、翌年にアメリカからジューディ・データー、ジャック・ウェルポット夫妻を招き、一週間にわたるゾーンシステムのワークショップを行うことになりました。そこにはクリス・ジョンソンも指導者兼モデルとして自費で来日して参加しましたが、彼とはその後訪米した時、自宅まで訪問するほどの付き合いとなりました。

ワークショップには三十人ほど集まり、現在は日本写真芸術学会会長の高橋則英氏なども参加していました。

このゾーンシステムワークショップによって、撮影データを記録しておき、光の条件に見合う現像を行ってプリントまでをつなぎとめ、自分がイメージした作品に仕上げていくという技法を知ることが出来ました。それまでは、撮影・現像・プリントはそれぞれ独立して行うのが普通だったので、まさに目からうろこの経験でした。

それまではセンチメートルの授業でフィルムの特性曲線を書くことはできても、それをプリントの表現にどう結びつけるかはわからなかったのです。それを教えてくれるのがゾーンシステムでした。私がゾーンシステムを知ったのは、アシスタントになって7年目くらいの頃でした。

1970年代後半、細江先生がアンセル・アダムスに招かれてワークショップを行ったころから先生のプリントは変わり始めました。

オリジナルプリントという言葉が日本で知られるようになり、それがどういう意味なのか、何か決め事があるのか、などと質問してくる写真家もいました。私は「自分のテーマに沿い、作者自身によってプリントしたものがオリジナルプリントです。」と答えるようにしたものです。

細江先生の助手は1977年まで9年間務めました。自分がいた時期は、先生が最も活発に活動していた、いちばん良い時期だったと思います。

日本電子工学院芸術学部映像科(蒲田)の細江

先生の授業を引き継ぎ、週に3回教えました。授業が終わった後でも大切なプリント作りがある時は細江スタジオにもどり、仕事をしました。アシスタントは多い時には5人ほどいましたが、入れ替わりも時々あり、大事な作業の引継ぎが円滑にはいかなかったようです。

鹿島建設などから仕事が入るようになり、写真家として独立するめども立ってきました。しかし、自分の作品をどう創るかは、しばらく悩みましたね。

細江先生はオリジナルプリントや写真集を多くコレクションしていて、それを整理するのも自分の仕事だったため、それを眺めるのもよい勉強になりました。

オリジナルプリントを見て、その美しさ、表現に感動する機会がないと、ファインプリントはなかなか拡がらないのです。プリント創りを簡単に考える人が多いのは残念なことです。しかし、これから学校でゾーンシステムを教えることになり、すこしでもそのような兆しが見えてきたのは希望が持てます。これからも継続的に進めていきたいと考えています。

聞き手 畑 文夫

(以下次号)

編註:

フジペット

富士写真フィルム製の子供向けブローニーカメラ。(1957年発売)

コニレット

小西六写真工業製のスプリングカメラ。35mm穴無し専用フィルムを使用。(1953年発売)

プリセット絞り

一眼レフ用交換レンズで、設定リングと絞り込みリングが別けてあり、ピントを合わせた後に手動で絞る方式。

ジャック・ウェルポット (Jack Welpott)

アメリカの写真家。(1923~2007)

1959年、サンフランシスコ州立大学美術学部で写真を教えることになり、その後33年間、同大学で教鞭をとりました。彼はすぐに、アンセル・アダムス、ルース・バーンハード、オリバー・ガグリアーニ、ドロテア・ラングといった地元の写真家コミュニティとも交流を深めました。

(<https://www.jackwelpott.com/about.html>)

ジュディ・データー (Judy Dater)

アメリカの写真家。(1941~)

彼女は、アンセル・アダムス、エドワード・ウェストンとブレット・ウェストン、ウィン・ブロック、そしてイモーゲン・カニンガムといった写真家を代表とする西海岸写真派のコミュニティの一員となりました。エドワード・ウェストンは既に亡くなっていましたが、他のメンバーは皆彼女の作品に興味を持ち、写真家としての道を進むよう奨励しました。特にイモーゲン・カニンガムは、グループの中で唯一、ポートレートを主な作品としていたため、大きな影響力を持っていました。(<https://judydater.com/biography>)

クリス・ジョンソン (Chris Johnson)

アメリカの写真家、教育者 (1948~)

カリフォルニア芸術大学の写真学科名誉教授

著書 The Practical Zone System for Film and Digital Photography

2025年 活動記録 (1~9月)

1月例会 11日(土) 文京区民センター3D会議室

中島代表、荒井、石井康、石井政、岩田、臼井、大内、小菅、長谷川勇、浜野、若子、畑

・中島代表より：研究会は銀塩写真のすばらしさを伝えていく会にしたい。

会員はもっと多く撮影・プリントする必要がある。

各自がテーマを自分で決め、年間のフィルム使用量の目標も設ける。(例 4×5 なら年間○枚、ブローニーなら○本、など)

大伸ばし(16×20など)にチャレンジし、自分の技術の問題点を明らかにしてほしい。

2月総会 8日(土) 文京区民センター3D会議室

中島代表、石井康、石井政、岩田、臼井、大内、葛城、金子、橋田、小菅、鈴木知、塚田、長谷川勇、長谷川登、浜野、皆川、若子、畑 (見学 八木修)

(議決事項がないため議長を選任は省略)

・中島代表挨拶：今年が研究会の30周年記念の年で、富士フィルムフォトサロンでの写真展が決定した。

・写真集について(鈴木・浜野)：各種サンプルをあつめ、見積もりをとっている

・ゾーンテキストの電子化検討(若子)：アマゾンの電子書籍を利用すれば在庫管理や発送などを行う手間がなくなる。

3月例会 8日(土) 品川区立中小企業センター

中島代表、永野武宏氏(デザイナー)、大内、臼井、鈴木知、若子、畑、岩田、塚田、金子、荒井、長谷川勇 (見学 八木修)

・今年の写真展が決定：会場 富士フィルムフォトサロン 東京(東京ミッドタウン)、会期 8月22日(金)~28日(木)、タイトル(仮) ゾーンシステム研究会ポートフォリオ展

・写真集のコストはデザイン料を含み30万円以内におさえたい。

4月例会 12日(土) 文京シビックセンター 3C 会議室

中島代表、大内、臼井、鈴木知、若子、浜野、畑、岩田、石井康、小菅、宮内、塚田、金子、荒井、長谷川勇、皆川

・写真展のタイトルは「ゾーンシステム研究会 ポートフォリオ展 アダムスのバトン」とした。(注「バトン」は指揮棒のこと)

富士フォトの指示により、フレームの亚克力板を外した額装サンプルを作った。

・写真集(鈴木知)：ダブルトーン印刷、本文デザインもデザイナーに任せたい。300冊制作、総費用は40万円程度の見込みとなる。予算が30万円なので、不足の10万円は会員が買い取ることを見込む。

5月例会 10日(土) 文京シビックセンター3C 会議室

中島代表、大内、臼井、鈴木知、若子、浜野、葛城、塚田、畑、岩田、小菅、石井康、金子、荒井、長谷川勇、鶴見

・亚克力抜きフレームによるプリントのひずみは、フレームマンに確認を取りOKとなった。

・DM印刷は合計4000枚とする。(内2300枚を富士フォトに提出)

・ゾーンシステムテキストはアマゾンで4月16日から販売開始した。4月上売18冊。国会図書館、大学図書館などに15冊寄贈した。(若子)

→ 今後の入会者には書籍版を購入してもらい、入会金3000円から1200円を割引くことにする。

6月例会 14日(土) 文京区民センター2B 会議室

中島代表、若子、鈴木知、浜野、畑、小菅、岩田、橋田、金子、荒井、臼井、長谷川勇、石井康、皆川

・会場レイアウト案の説明(浜野)

・キャプションは名刺サイズ、濃いグレー地に白字とする。

7月例会 12日(土) 文京区民センター2B 会議室

中島代表、大内、鈴木知、臼井、塚田、橋田、長谷川勇、皆川、岩田、金子、石井康、荒井、浜野、葛城

展示の準備(プリントのマット装等)を19日に行う。

8月例会 9日(土) シビックセンター3A 会議室

中島代表、鈴木武、若子、鈴木知、臼井、塚田、長谷川勇、皆川、岩田、金子、石井康、荒井、浜野、川北、畑

・展示プリント類はフレームマンに搬入した(中島)

・写真展を機会にゾーンシステムワークショップを実施し、会員募集にもつなげたい。鈴木知が企画し、レンタル暗室なども調査・打診する。

写真展 8月21日展示作業、22~28日展示

9月例会 13日(土) 文京シビックセンター3B 会議室

中島代表、臼井、浜野、鈴木知、鈴木武、岩田、金子、荒井、若子、塚田

・中島代表：写真展は皆さんの努力もあり成功だった。日本写真芸術学会の高橋則英会長など、大学関係者も来場されてよい評価を頂いた。

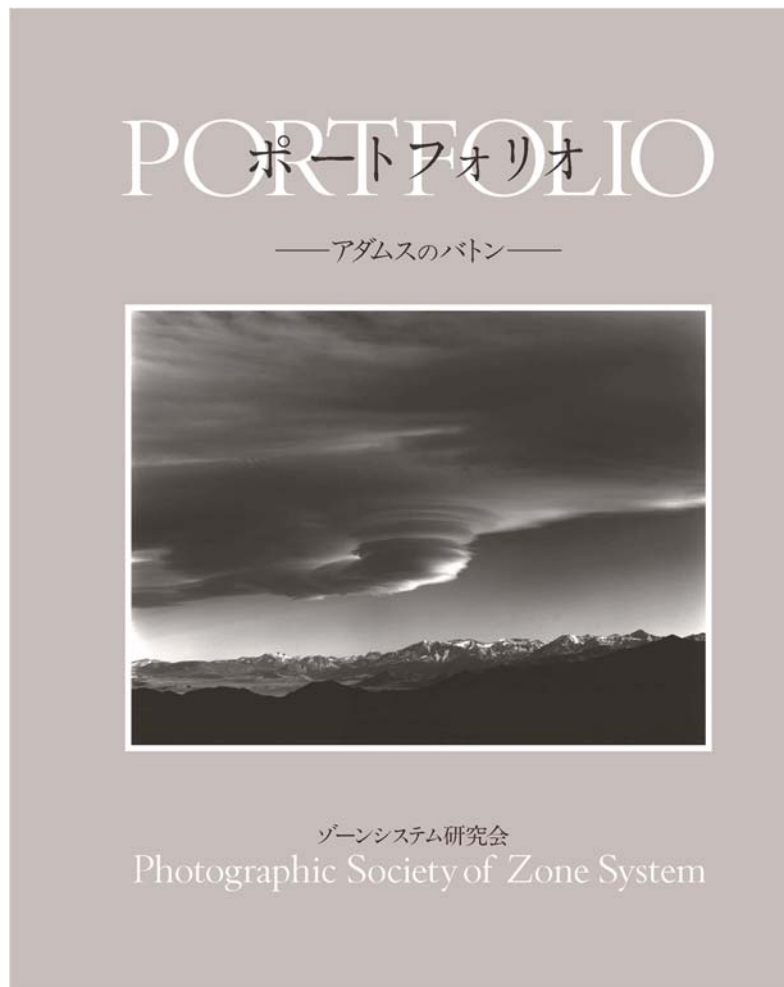
銀塩写真の美しさ、ポートフォリオを制作する意義も伝わったと思う。

・会場の売り上げ金が一部行方不明となった。来年以降は対策を講ずる必要あり。

ゾーンシステムワークショップ 9月14~28日までの日・祝4日間、ギャラリーE&Mで開催。4名が受講。

ゾーンシステム研究会 初の写真集

ポートフォリオ — アダムスのバトン —



8×10インチサイズ (203×254mm) 64ページ
ダブルトーン印刷 図版47点 (2025年写真展 全作品収録)
2025年8月22日発行